

## 編集後記

仮りに市立病院を例にとつて考えると、その病院と市との関係は実際的にはあまり深くないのに、その病院が市から受ける干渉は甚だ大きいというような事はないであろうか。勿論その病院の設立に当つては市から大きな援助を受けたであろう。然し現在では独立採算的に経営しており、市から財政的な補助は殆んど受けていないことが多い。それでも市立病院であるという立て前から、市当事者によつて色々の注文や制肘を受ける。人事権も市にあるから、院長以下の生殺力も握つている。たとえ院長が診療科目を増したり、医員の定員を増したり或は職員の待遇を改善したりしようと考えても、市が承知しない。そこで院長は苦しい立場に置かれることになる。市の方は院長の首でも切るぞというような態度を見せるので、院長としても市の当事者に対して頭を上げにくく、また充分に主張を述べにくくなり、これも無理のない事である。然し若い医員などにしてみれば、自分は大学医局から派遣されているのだという気持はあるが、市に対して特別の恩顧を受けていないので、市が病院に対して強い圧力を持つていることに就て反撥を感じる。それも当然である。医員を送る大学側としても現在の所では医員の増員や待遇問題に就て充分に要求していない状況である。これでは困つたことだ。



昔に比べて勤務医は地位も待遇も低くなつたものだ。医師になるための修業や医師としての任務は昔よりもむずかしくなつてはいるが、地位と待遇は却つて下つている。然し医師は単に食うための職業ではなく、単なる労働者ではなくて、特別に高い道義が要求せられるものであるから、それに伴つて尊敬せられるべき地位と、充分な待遇が与えられるべきである。これらの問題は一個の市立病院だけの問題ではなく、全国の市立病院、更に県立病院、赤十字病院等にもあてはまる。それら全ての病院が連合して取り上げるべきであり、その際には勤務医という共通の基盤に立ち、医師自体が中心になつて運動するべきであろう。これには医員を供給する大学側の強力な支援が是非とも必要である。このような医療制度に関連する問題及び医師自体の問題に対しても、大学はもつと熱心に対処するべき責務があると思う（昭和34年9月）

### 購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字。平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行方が希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。